

H31地域協働研究（ステージⅡ）採択課題一覧表 【研究期間：H31年4月～R3年3月】

研究番号	研究課題名	研究代表者			共同研究者 (提案団体名)	他の構成メンバー			研究区分	研究分野	研究課題の内容	研究フィールド	研究協力者
		所属	職	氏名		所属	職	氏名					
H31-Ⅱ-01	岩手県における重層的見守りシステムの検討と構築	社会福祉学部	教授	小川晃子	岩手県保健福祉部地域福祉課	社会福祉学部 看護学部 岩手県保健福祉部地域福祉課 岩手県保健福祉部地域福祉課	教授 准教授 総括課長 主査	齋藤昭彦 千田陸美 菊池優幸 鈴木康平	一般課題	地域社会	持続可能な地域 安心・安全な地域	県全域	岩手県社会福祉協議会、岩手県民生児童委員協議会、岩手県老人クラブ連合会、いわて未来づくり機構
		<p>① 解決を目指す課題(何を解決するのか) 岩手県は高齢化・人口減少が進展しており、地域における見守り体制の構築が課題である。それを背景として岩手県立大学が開発した「お元気発信」を岩手県社会福祉協議会の事業として運用するなどの取り組みを行ってきた。しかし、東日本大震災の影響もあり、さらなる普及が課題となっている。また、震災後、人的見守りにあたってきた生活支援相談員の体制を含めた中長期的な見守り支援のあり方検討が必要となっており、人的見守りとICT活用見守りの再構築が必要な時期にきている。こうしたことを背景として、岩手県内における見守りにおける新たなシステムづくりについて、ICT活用と人的見守りの重層化について地域の資源を活かした具体的な方策を明らかにする。ICT活用の面では、「お元気発信」の今後の運用やAI/IoT等の技術を活用したシステム等が普及するなかでの岩手県における活用の可能性を検討するとともに、人的見守りの面では民生委員・生活支援相談員等の人的見守りの育成と活用方法や、県民における地域見守りの在り方について明らかにする。</p> <p>② 実施方法・取組みの概要 プロジェクトのこれまでの取り組みから得られた、送迎とテクノロジーを活用した見守りの在り方を提示し、関与者との協議・検討を行い、問題解決を図る。</p>											
H31-Ⅱ-02	盛岡市内企業における女性活躍推進に効果的な手法の開発と検証	社会福祉学部	准教授	吉田仁美	盛岡市市民部市民協働推進課男女共同参画推進室	盛岡市市民部市民協働推進課 男女共同参画推進室 盛岡市市民部市民協働推進課 男女共同参画推進室	室長 主査	澤口佐知子 田山路子	一般課題	地域マネジメント	持続可能な地域 多文化共生社会	盛岡市	もりおか女性センター、盛岡商工会議所、盛岡市男女共同参画推進懇談会、岩手県男女共同参画センター、10人の女性講師夢プロジェクト
		<p>① 解決を目指す課題(何を解決するのか) 2018年度地域協働研究（ステージⅠ）において、盛岡市内事業所を対象に「女性活躍推進に関する事業所調査」を実施した。回答企業のうち約4割が「女性活躍推進について経営方針等において現在は明示していないが今後検討したい」とし、また女性活躍推進の課題として多くの企業が「女性社員の理解・行動・意識改革・キャリア形成支援」「管理職の認識・意識・マネジメントスキルの向上」等をあげた。このことから「一人ひとりの女性が持つ意欲と能力を最大限発揮できるような環境をつくる」視点が盛岡の女性活躍推進の取組に求められており、事業所の取組を支援する方法の一つとして、効果的な人材育成が今後の課題となった。</p> <p>② 実施方法・取組みの概要 ステージⅠの研究成果を踏まえ、人材育成・啓発事業を開催する。また、受講者などにアンケート調査などを実施し、事業効果を検証した上で、今後盛岡市など行政や関係団体等で展開する施策立案に生かす。 (1)女性社員向け人材育成セミナーの実施（意識や行動の気付きと変容・マネジメント思考・コミュニケーションスキル等のキャリア形成支援） (2)企業向け啓発資料の作成「誰もが活躍できる職場づくりのためのロールモデルインタビュー集」（イクボス実践者・女性管理職・ワーキングペアレンツ（男女）・男性育児休業取得者・介護休業取得者・働き方改革取組企業等）</p>											
H31-Ⅱ-03	北いわてにおける生活支援型コミュニティづくりー中山間地域の持続可能な生活を実現する新たな社会技術の確立	社会福祉学部	教授	小川晃子	岩手県政策地域部地域振興室	社会福祉学部 社会福祉学部 ソフトウェア情報学部 岩手県政策地域部地域振興	准教授 准教授 准教授	齋藤昭彦 佐藤哲郎 樽松理樹 大釜範之 ほか	一般課題	地域社会	持続可能な地域 安心・安全な地域	岩泉町、岩手町	ヤマト・スタッフ・サプライ(株)、岩手西北医師会、岩泉町・岩手町ほか岩手県北部市町村、ヤマト運輸(株)岩手主管支店、いわて未来づくり機構
		<p>① 解決を目指す課題(何を解決するのか) 北いわて（岩手県の東北圏域と隣接市町村の北部13市町村）においては高齢化・人口減少が県平均を上回る速度で進展しており、地域コミュニティ機能の低下や担い手不足による集落機能の維持が困難になっている。特に、中山間地域に点在する小集落においては、買い物や医療などの日常生活サービスの利用が困難になり、公共交通機関の縮小・撤退に伴う交通弱者も増加している。こうした状況を踏まえ、人や地域のつながりを大切に作る風土を生かしながら、ICTや新たなサービスの開発などを加え、持続可能な活力ある地域コミュニティを形成することが課題である</p> <p>② 実施方法・取組みの概要 プロジェクトのこれまでの取り組みから得られた、高齢者の生活支援策（買い物・通院や福祉施設利用等）に送迎とテクノロジーを活用する案を提示し、地域の多様な関与者（行政、医療・福祉関係者、住民団体の役員、民間事業者等）とアクションリサーチを行い、問題解決を図る。</p>											
H31-Ⅱ-04	若者への自殺予防を見据えたSNS相談の地域版ゲートづくりー自殺予防を見据えた取組みー	ソフトウェア情報学部	講師	富澤浩樹	盛岡市保健所保健予防課	社会福祉学部 盛岡市保健所保健予防課 盛岡市保健所保健予防課	准教授 副主幹 保健主査	川乗賀也 石井里美 小川文子	一般課題	地域社会	安心・安全な地域	盛岡市	チャイルドラインいわて、岩手県精神保健福祉センター、岩手県ひきこもり支援センター、岩手県県央保健所、(株)NECソリューションイノベーター
		<p>① 解決を目指す課題(何を解決するのか) 盛岡市における自殺の状況は、平成21年以降緩やかに減少しているが、「自殺者の性・年代別」をみると、男性では40・50歳代、女性では50・60歳代が多い状況で、経年的な傾向も同様である。一方、39歳までの若年層（以下、若者）の自殺死亡率は全国平均より高い傾向にある。特に39歳までの男性の自殺死亡率が29.28と全国19.50と比較して10ポイント以上高い状況である。本研究では、若者の自殺死亡率の低減を目標とする。そのために、若者のこころの相談窓口への誘導に向けた基礎調査と、具体的な手段としてSNS上にチャットボットを用いた試作システムを研究開発し、その有用性について検証する。</p> <p>② 実施方法・取組みの概要 以上の課題状況が生じている要因として、必要なときに相談をできる場を若者が理解できていないことが推測できる。そこで本研究では、こころの相談窓口への誘導に向けた基礎調査を踏まえ、多くの若者が利用するSNS上にチャットボットを用いた試作システムの研究開発を試みる。平成30年度地域協働研究「若年層の悩みに関する意識調査ー自殺予防を見据えた取組み」では、悩みを抱えた若者に対してSNSを通してアプローチすることが有用であることが示唆されたが、具体的なシステムの実装方法についての知見は蓄積されていない。本研究では、先ず、全国で行われている類似事例の調査、文献の収集を行い、SNSチャットボットを用いた相談窓口への誘導方法について検討する。その上でシステム開発を行い、自殺予防に効果的なシステムのあり方を探る。</p>											